

「第16回奨励賞・功労賞」記念特別号

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.109 Special Issue, 2011.9

I. 第16回日本女性科学者の会奨励賞・功労賞贈呈によせて

第16回(2011年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式、ならびに奨励賞受賞記念講演会が6月19日(日)午後、学士会館で執り行われました。今回の奨励賞の応募者は19名で、昨年より若干少なくなりましたが、応募された方々の研究レベルは非常に高く、外部評価委員の先生方ともども、理事会も最終選考においては大変に苦労しました。世界に通用する研究成果を上げている若い女性研究者が着実に増えていることが実感でき、我が国の科学・技術の将来が大いに期待されます。

今年度の奨励賞は、鉍質コルチコイド受容体の活性化とメタボリックシンドロームの臓器障害との関連性を研究されている長瀬美樹氏、光合成に関与する生体膜タンパク分子光化学系II複合体の単離に成功して、この分野をリードしている杉浦美羽氏の両名に贈呈されました。それぞれ、医薬

品開発、ならびに将来の太陽光エネルギーの効率的利用に向けた発展が期待される研究成果であり、受賞記念講演においては、お二方の研究への熱い思いが聞く者の心に伝わって、誠に感動的な講演会となりました。

功労賞受賞の橋本葉子氏は、視覚の研究でこの分野をリードされただけでなく、女性医学研究者の地位向上に数々の貢献をされてきました。大隅正子氏も女子大学で理学部長等を歴任されて優れた女性理系人材輩出に尽力されただけでなく、顕微鏡を駆使した国際的な研究成果を残しておられます。お二方とも私どものロールモデルとして見事な生き方をされてきたことが、懇親会で賜ったお言葉からうかがうことができ、若い方々にも良い刺激になったのではないかと思います。

当日は、内閣府男女共同参画局の岡島局長、大学女性協会の阿部副会長もご参列くださり、懇親会では祝辞も頂戴しました。この紙面を借りて改めて感謝の意を表します。

目次

I. 第16回日本女性科学者の会奨励賞・功労賞贈呈によせて	1
II. 第16回奨励賞受賞者のプロフィール	2
III. 第16回功労賞受賞者のプロフィール	3
IV. 奨励賞受賞者の挨拶	4
V. 功労賞受賞者の挨拶	6
VI. 第16回(2011年度)日本女性科学者の会 賞選考経緯	8
第17回『日本女性科学者の会奨励賞』 募集要項	9
VII. 2010・2011年度事業報告、総会報告 その他	10
VIII. 支部だより	11
IX. 第16回奨励賞・功労賞贈呈式および レセプションと総会風景	12



奨励賞受賞者 長瀬氏 奨励賞受賞者 杉浦氏 功労賞受賞者 橋本氏 功労賞受賞者 大隅氏

Ⅱ. 第 16 回奨励賞受賞者のプロフィール



長瀬 美樹 氏
(NAGASE MIKI) 45 歳

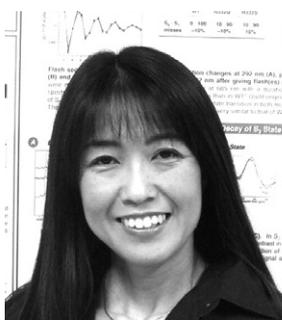
博士 (医学)
東京大学大学院医学系研究科
特任准教授

研究課題: メタボリックシンドロームにおけるアルドステロン／鉱質コルチコイド受容体活性化機構と心腎臓器障害における役割

賞贈呈理由: メタボリックシンドロームの臓器障害メカニズムに鉱質コルチコイド受容体 (MR) 活性化が主要な役割を果たしていることを明らかにした。さらに MR 活性化には、アルドステロン依存性機序と、非依存性 Rac1 介在性機序とが存在することを解明した。アルドステロン／MR 系が肥満や食塩過剰摂取などの現代人の抱える問題と密接な関わりを持つことを報告したことから、新規の診断法および医薬品開発へと、臨床的展開が期待されている。

略 歴: 1990 年、東京大学医学部医学科卒業。1992 年、東京大学医学部附属病院分院医員。1994 年、同大学大学院医学系研究科内科学博士課程入学。1998 年、同研究科修了。医学博士取得。同大学医学部附属病院分院教務職員。2001 年、同大学院同研究科 (腎臓・内分泌学) 客員研究員。2004 年、同大学院同研究科・22 世紀医療センター・臨床分子疫学講座助手。2009 年、同大学院同研究科・慢性腎臓病学講座 特任准教授。

連絡先: 〒 113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院医学系研究科
TEL 03-5800-9828 FAX 03-5800-9738
E-mai : mnagase-tky@umin.ac.jp



杉浦 美羽 氏
(SUGIURA MIWA) 42 歳

博士 (農学)
愛媛大学 無細胞生命科学
工学研究センター 准教授

研究課題: 水の酸化を伴った光合成によるエネルギー変換機構と分子構造に関する研究

賞贈呈理由: 光合成に関与する生体膜タンパク分子光化学系 II 複合体の機能解明に向けて、複合体の単離、分子構造変化のための遺伝子組み換え系の完全確立など、生物化学的、分光学的手法を組み合わせた独自の視点で研究を展開し、光合成電子伝達系の高効率なエネルギー変換のメカニズム解明につながる重要な基礎的な知見を報告してきた。将来のエネルギー問題解決に向けて、太陽光を最大限に利用するためにも研究成果に大いに期待が寄せられる。研究への情熱と熱意あふれる姿勢は真に評価に値する。

略 歴: 1992 年、甲南大学理学部生物学科卒業。1994 年、神戸大学大学院理学研究科 修士課程修了。1997 年、同大学院自然科学研究科博士後期課程修了。1997 年、博士 (農学) 取得 (神戸大学)。1997～1999 年、理化学研究所 基礎科学特別研究員。1999 年～2008 年、大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 助教。2008 年～現在、愛媛大学 無細胞生命科学工学研究センター 准教授。この間、2010 年、放送大学 非常勤講師 (兼任)。2010 年～2016 年、科学技術振興機構「さきがけ」研究員 (兼任)。

連絡先: 〒 790-8577 愛媛県松山市文京町 2-5
愛媛大学 無細胞生命科学工学研究センター
TEL 089-927-9616 FAX 089-927-9616
E-mai : miwa.sugiura@ehime-u.ac.jp

Ⅲ. 第16回功労賞受賞者のプロフィール



橋本 葉子 氏
(HASHIMOTO YOKO) 79歳

医学博士
東京女子医科大学名誉教授

賞贈呈理由：橋本氏は医学研究者として研究・教育に長年携わり、多くの女性医師の育成に尽力した。近年は、国連 NGO 国内婦人委員会副委員長として男女共同参画推進連携会議に参加、女性医師・女性研究者のための子育て支援策を具体化し、その整備に尽力した。日本女医会会長、国際婦人年連絡会世話人、男女共同参画推進連携会議（副議長、企画委員）ほか、各種団体の先頭に立つことが多く、また、内閣府の主催する各種会議等にも委員として出席し、女性科学者の研究推進と地位向上に力を注いでいる。また、1999年より現在まで、吉岡彌生記念館館長として広く市民の医療に関する啓発活動を行っている。それらの功績で吉岡彌生賞（1981年）、瑞宝重光章（2008年）ほか多くの賞を受賞している。

略 歴：1956年、東京女子医科大学卒業。1957年、慶応義塾大学医学部生理学教室助手。1961-1962年、米国オハイオ州立大学視覚研究所留学。1963年、医学博士（慶応義塾大学）、東京女子医科大学 助手、同大講師。1971-1972年、米国エール大学眼科学教室へ留学。1972年、東京女子医科大学 助教授。1984-1997年、東京女子医科大学教授。1992-2009年、同大評議員、1994—1996年、同大副学長。1996-1997年、同大／同大看護短期大学 学長代行。1997年、同大名誉教授。1997-2001年 同大看護短期大学 学長。1997-2007年、同大理事。2006-2010年、スーパーCOE 東京女子医科大学国際統合医科学インスティテュート顧問。

連絡先：〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニ内
新紀尾井町ビル4階 ICVS 東京クリニック
TEL / FAX 03-3222-7733



大隅 正子 氏
(OSUMI MASAKO) 76歳

医学博士
日本女子大学名誉教授
NPO 法人
総合画像研究支援理事長

賞贈呈理由：大隅会員は一貫して女子大学での教育と研究に従事し、多くの優秀な女性理系人材の育成に多大な貢献を果たした。長年にわたって酵母の微細構造と機能に関する構造生物学的研究を推進、細胞の構造と機能が密接に関連することを実証した。特に、電子顕微鏡を用いた研究の草分け的存在で、その成果は農学、医学などの分野にも広く応用されている。この業績に対し、1981年には電子顕微鏡学会瀬藤賞、1983年には猿橋賞、2002年には紫綬褒章、2010年秋には瑞宝中綬章を受章した。2004年、可視化技術の利用と普及を目的とした認定NPO法人総合画像研究支援を設立し、分子生物学領域の研究支援、専門技術者の養成、国際協力活動を通じて日本の生命科学と科学技術の発展に大きく寄与している。

略 歴：1957年、日本女子大学家政学部家政理学科卒業、同大学家政学部家政理学科生物学教室 助手。1965年、医学博士取得（東邦大学）。米国南イリノイ大学生物学研究所 研究助手、日本女子大学家政学部家政理学科 専任講師、同大助教授を経て、1975年 同大教授。1992年、（改組により）理学部物質生物科学科・大学院人間生活学研究科 教授。1996年、同大学大学院理学研究科 教授。2000年、日本女子大学総合研究所 所長。2001年、日本女子大学理学部部長・理事・評議員。2003年、帝京大学医学部真菌センター教授、日本女子大学名誉教授。2004年、NPO 法人総合画像研究支援設立、理事長就任、現在に至る。

連絡先：〒102-0093 東京都千代田区平河町1-7-5 ヴィラロイヤル平河103
特定非営利活動法人総合画像研究支援
TEL / FAX 03-3515-6477

IV. 奨励賞受賞者の挨拶

日本女性科学者の会奨励賞受賞に寄せて

東京大学 慢性腎臓病 (CKD) 学講座
長瀬 美樹

今回、このような栄えある賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。選考委員の方々に深く御礼申し上げます。また、今回の受賞に至るまで私を導いてくださった恩師藤田敏郎先生はじめご指導いただいた多くの方々、研究室のメンバーにこの場を借りて心より御礼申し上げます。

私は1990年に東京大学医学部を卒業後、第四内科（現 腎臓・内分泌内科）に入局し、腎と高血圧の研究に携わってまいりました。今回の受賞テーマである「メタボリックシンドロームにおけるアルドステロン／鉱質コルチコイド受容体 (MR) 活性化機構と心腎臓器障害における役割」は、出産後のリスタート研究として2004年より取り組んできたテーマであり、感慨もひとしおです。

研究内容について簡単にご紹介しますと、私の着目しているアルドステロン／MR系は腎臓での塩分再吸収の主要な調節因子で、進化論的には生物が塩分の少ない陸上で生命を維持する過程で獲得し、必須な役割を果たしてきました。一方、現代社会に特徴的な過食・塩分過剰摂取といった環境要因によってアルドステロン／MR系は過剰に活性化され、高血圧、心血管病、腎臓病をはじめとする疾患の形成に深く関わるようになってきました。こうした現代病の鍵分子MRに関して、遺伝子改変動物の解析や新たなMR活性化機構についての基礎研究に加え、新規原因物質の同定（脂肪細胞由来アルドステロン分泌刺激因子）、新規診断法（臓器MR活性化の簡便な診断法）、MR活性化制御因子を分子治療標的とした新たな治療法（Rac特異的阻害薬など）の開発など、多面的アプローチでトランスレーショナルリサーチを目指した研究を展開中です。

大学を卒業してはや20年が過ぎました。その間、多くの方々に支えられ、家庭を持ちながら研究を継続してこられました。卒後3年目に結婚し、9年目に長男を出産しました。結婚して苦労したことはほとんどありませんでしたが、仕事と育児の両立は予想以上に大変でした。今ほどサポートシステ

ムもなく、子供に手がかかる時期にはなかなか論文を出せませんでした。この時期、気付くと私より先輩の女性の先生方はみな退局されており、大学で仕事を続けられるのか、続けていてよいのか不安に感じたこともありました。「あせらず、あきらめず頑張ってください」という主任教授の温かいメッセージに励まされて研究を継続しました。子供が5歳になった頃に、寄付講座の助手に着任する機会を与えていただき、前述の研究テーマに着手しました。熱心な大学院生や家族・親戚のサポートに恵まれ、腰をすえて研究に臨めるようになり、研究者としての醍醐味を存分に味わうことができるようになりました。あの時あきらめずに継続して本当によかったと思います。今振り返ってみると、本当に大変なのはごく限られた期間だったように感じられ、その時期を何とか乗り越えることが重要です。ロールモデル的な女性が身近にいることは心の支え、励みになります。

昨年より日本腎臓学会の男女共同参画委員会のメンバーにもなり、男女共同参画について考える機会が増えました。日本の女性研究者の割合が世界的にみても非常に低いことを知り、愕然としました。懇親会で工学部の方が、若い女性研究者のリクルートのために中学生とその親御さんを対象とした講演会を開催している、とおっしゃっていましたが、幸いにも医学部では最近女性医師が非常に増え、多くの方が大学院に進学して第一線の研究に取り組んでおられ、人材確保の心配は不要な状況です。しかしまだまだ過渡期であり、仕事と子育ての両立に苦労している方も多いように思います。自分自身なお未熟者ではありますが、本会を通じて他の領域でご活躍中の女性研究者の方々と交流の場をもち、互いにモチベーションを高めると同時に、若い方々に何らかのサポートイブなメッセージを発信できればと祈念しております。今回の受賞を励みに、精進を重ねて研究をさらに発展させていきたいと思っております。最後になりましたが、日本女性科学者の会のさらなるご発展を祈念いたしますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでの研究者人生を振り返って

愛媛大学 無細胞生命科学工学研究センター
JST- さきがけ「光エネルギーと物質変換」
研究員 兼任 杉浦 美羽

この度は第16回日本女性科学者の会の奨励賞に選んでいただき、大変嬉しく思います。今回初めて日本女性科学者の会に参加して、先輩先生方の女性ならではのご苦労話やハプニングのお話などを伺い、私は何とラッキーな時代に恵まれた環境で研究者人生を歩んできたのだらうと認識させられました。

私が大学院に進学した頃は男女雇用機会均等法が施行された数年後でしたが、まだ理系学部的女子学生は大変少ない時代でした。しかし、「就職の斡旋が難しいから」という理由で女子学生が指導教員に大学院進学を諦めさせられていたその10年程前とは異なり、就職も進学も自由に選択できる時代でした。それでも男女を問わず殆どの修士課程の学生は、博士後期課程への進学を躊躇していました。私が女性の強みを初めて認識したのはその頃です。同級生が将来を考えて進学か就職かを深刻に議論している時に、私は「誰かに養ってもらうから好きなことするの。」と、何の迷いもなく博士後期課程への進学を決めました。随分脳天気な言動ですが、仕事を持つ、家庭に入る、仕事と家庭を両立する等、女性の生き方の選択肢の多さと自由を都合良く利用したのでしょう。実際には、現在も誰かに養ってもらうことなく、自分を自分で養っている状況ですが（笑）。

学生時代は薬物代謝酵素の研究をしていましたが、学部生の頃から光合成による水の酸化とエネルギー変換機構に強い興味があり、当時、盛んに光合成研究を行っていた理化学研究所で研究することが目標でした。博士後期課程3年の春、理研の光合成科学研究室の主任であった井上頼直先生を訪問し、光合成のこういう機構をこんな手法で明らかにしたいので理研で研究させて欲しい、とお願いしました。先生は、私が女性であること、光合成研究の経験がないことを理由にかなり渋っておられました。実際、長い歴史を持つその研究室では女性研究者は過去に一人だけでしたので、女性研究者の扱いが不安なのは仕方のない話です。また、光合成研究では伝統的な独特の実験技術を使うため、他分野出身者に不安があるのも仕方のないことです。しかし、諦めきれなかった私は研究計画書を井上先生にファックスで送り、意見を書いてもらうやり取りを10回ほど繰り返し、最終的に先生は私の熱意に根負けして研究の機会をくださいました。先生に「う

ちの押しかけポストドクです。」と私を色々な先生に紹介して頂いたのは懐かしい思い出です。

理研で研究を始めた頃、先生は「私はお金は出しますが、研究に口は出しません。ですからあなたは研究成果を出しなさい。」とおっしゃいました。学位を取った以上、一人前の研究者としての責任があり甘えは許されないことを強く認識させられた言葉でした。今思えば、駆け出しの他分野出身の研究者に、こんな気前良い最高の激励の言葉をかけるのは勇気のいることだったでしょう。いつか先生のような度量の大きな人になるのが私の目標です。そんな研究環境で、私はそれまでの常識的な研究手法や考え方をトコトン無視し、考えられるアイデアと実験手法を駆使して研究を進めたところ、それまでの光合成研究の大きな問題をブレイクスルーできました。この経験は私の研究哲学の原点です。

その後、大阪府立大学の高橋正昭先生に誘われて助教（当時は助手）のポジションを得ることができ、自由に研究をさせていただきました。ここでは研究の遂行には研究費の取得が必須であることを学びました。府大では、一部の先生方から酷いセクハラ、パワハラを受け続けましたが、高橋先生が守ってくださったお陰で何とか乗り切ることができました。先生の定年後の1年間はまさに地獄でしたが、愛媛大学の林秀則先生のお陰で無細胞生命科学工学研究センターの准教授として自由で快適な環境を得ることができ、辛かった府大時代から解放されました。

このように、私はいつも誰かに助けられ、時には庇護されたお陰で、興味のままに研究を推進できたように思います。上述した先生方以外にも、駆け出しの頃から私の研究結果を容赦なく議論したり励ましてくれた先輩研究者が何人もいます。中でも、現在も共同研究を進めている野口巧さん（現：名古屋大・理）とフランスCEA SaclayのAlain BOUSSACさんは、感謝してもしきれない方々です。

私が兼任する理学部化学科は40%近くが女子学生で、毎年のように卒研指導します。特に県外出身の女子学生から「大学院で研究を続けたいけれど親が実家に戻るように言うので諦めます。」と聞かされる度に、真面目で優秀な彼女たちの将来が制限されることを大変残念に思います。親からの制限もなく、自由に思うままに生きてきた私にできることは、中高生の段階で彼女らの親に研究者という選択がポジティブであることを啓発していくこと、それが女性研究者を増やす一つのアプローチではないかと思っています。

V. 功労賞受賞者の挨拶

「日本女性科学者の会功労賞」を頂いて

橋本 葉子

この度は歴史ある日本女性科学者の会功労賞を頂き、光栄に存じます。

私は1956年東京女子医科大学を卒業、1年間のインターンの後国家試験合格、医師免許を取得し、直ぐ、慶應義塾大学医学部生理学教室の助手になり、医学博士を取得後、母校の生理学教室に勤務致しました。専門は視覚生理学です。手法は、電気生理学を中心とし、必要に応じて、光学顕微鏡や電子顕微鏡を使用しての組織学的検索、顕微分光光度計による視物質の測定など、使用できる手法は共同研究を含めて殆ど網羅しつつの研究生活でした。感覚器の中でも網膜は一番複雑な構造をしており、微小電極法の発達に伴い、細胞1個から光に対する応答が記録可能になり、網膜内各種細胞間情報処理機構の研究で40年間の研究を終えました。退職後は研究活動を一切諦め、東京女子医科大学理事、(社)至誠会会長、(社)日本女医会会長なども数年前に辞任し、今は掛川市吉岡彌生記念館館長、国連NGO国内婦人委員会副委員長、国際婦人年連絡会世話人、内閣府男女共同参画推進連携会議企画委員など、社会活動を続けており、これらが今回の受賞に繋がったのではないかと考えております。

私が日本女医会の会長をしていました頃、各年齢層での就業状態を示すグラフで、女性医師でもM字カーブになってしまう、これは先進国では余り見られない現象である、何故そうなるのか、が問題になり、育児の時期に仕事を中断せざるを得なくなる環境が最大の問題であることが分かりました。そこで、女性医師が満足して医療を続行できる育児環境を整備することは、他職種の働く女性の育児環境整備に繋がるものと考え、小渕内閣の時、「働く女性の育児環境整備に関する要望書」を小渕総理を始め、関係者にお手渡ししたり、お送りしたり、積極的な活動を致しました。しかし、

その当時は未だ、男女共同参画という概念には遠く、日の目を見ずに終わってしまったかに思われましたが、現在の内閣府の動きを見ておきますと、あの当時の活動は無駄になってはいなかったのではないかと考えております。

ささやかな社会貢献をしている私に、日本女性科学者の会功労賞を授与していただき、本当に有り難うございました。

「日本女性科学者の会功労賞」を頂いて

大隅 正子

この度は、皆様の温かいご推薦によりまして、功労賞を頂きましたことを、とても光栄に存じ、深く感謝申し上げます。

私は、この会の前身の「日本婦人科学者の会」の頃からの会員として、大学卒業直後から、時々講演会や総会に出席させて頂いて参りました。当時は、化学系の先生方が多かったようでしたが、生物系の先生方が講演をされる時には必ず、耳学問をしに、出席させて頂きました。

さて、「女の子なら一貫教育の日本女子大へ」と決めていた、子煩悩の父親が、私を附属の豊明幼稚園に入園させました。それ以来大学を定年退職するまで、64年もの長い間、目白の学び舎で過ごしました。そして今も、評議員として、時折大学に出向いております。

その間に、1992年には、家政学部から独立して、日本女子大学に38年来の悲願であった、理学部が創設されました。私は推進者の一人として、創設に最大の努力をしました。そして、1996年には、理学部に大学院が設立されましたが、私はこれにも大きく貢献した、と自負しております。

それより以前の、1957年に大学に採用後は、当時生物学の最先端の研究機器であった、電子顕微鏡

を武器とする微細形態学に魅かれ、米国の大学に1962年から15カ月間留学して、電子顕微鏡の最新技術を身に付けて帰国しました。医学部のない私立大学としては最も早く、電子顕微鏡室が学内に設立されていましたが、1982年にはそれを電子顕微鏡施設に発展させて、学内外の多くの研究者の共同利用に門戸を開きました。そのようにしたのは、日本女子大学に電子顕微鏡施設がない時代に、電顕メーカーや他大学の機器をお借りしなければならなかった、私の辛い経験からでした。

この施設は2001年に文科省から私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センターの初年度の選定を受けました。さらに2009年からは、文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受け、バイオイメーキング専門の人材育成機関となり、私も研究分担者の一員として、日本女子大学の歴史ある可視化教育と研究の発展に協力しております。

電子顕微鏡学に関する身近な指導者に恵まれず、殆んど独学で専門分野を切り開いて来ましたので、酵母細胞の微細構造と機能に関する研究によって、1981年に電子顕微鏡学会賞を受賞した時は、感慨無量でした。以来、学生を指導しながら、主として酵母の細胞構造と機能に関する研究を進めて参りました。

今でも顕微鏡学会に参加すると、「学会内に日本女子大の同窓会ができるのでは？女性の電顕屋は皆先生のお弟子さんでは？」などと、いろいろな方がお世辞を言って下さるほど、電子顕微鏡技術を身に付けた卒業生は、古くから多方面の研究機関や会社で活躍しております。

私は大学を定年退職した翌年の2004年に、関係者のご支援を得て、「NPO法人・総合画像研究支援」を設立し、理事長として、可視化技術の研究支援、人材育成、普及・啓発の活動に、自分の年齢も顧みず、今も夢中で働いております。

最後に、笑い話を1つ申し上げます。私は昨年

秋の叙勲で瑞宝中綬章を頂きましたが、その伝達式の後に、天皇陛下の拝謁を受けるために、文科省関係者が皇居に参内しました。まずお庭で、受賞者と同伴者が別かれて並んでから、宮殿に入りますが、その時のことです。私は首から勲章を下げていたのですが、「同伴者はあちらに！」と係員にきつく言われた、と主人に話したら、同伴者である多くの奥様方と一緒にいた、かつて受賞した勲章を付けていた主人は、「受賞者はあちらです」と係員に言われた、と返事され、互いに大笑いしました。そして、平成の今でも、女性の受章者は例外的に少ないので、このように思われるのだ、と今も続く女性の社会的地位の低さを自覚しました。

ここにお集まりの若い会員の方々がご年配になられる頃には、女性が男性に伍して社会の各分野で大きく貢献しておられ、このように滑稽な風景はなくなるだろうと信じます。そのためにも、「日本女性科学者の会」のますますのご発展を、心から祈念申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。



VI. 第16回（2011年度）日本女性科学者の会 賞選考経緯

第16回日本女性科学者の会奨励賞について、今年度も、応募者を広く自然科学系より公募した。分野全体では昨年度より若干減少し19名の応募があった。内訳は、物理・数学分野0名、化学分野5名、生物・生化学分野4名、医学・薬学分野9名、その他1名であった。予めそれぞれの専門分野の権威ある外部評価委員の先生方に評価をしていただき、その審査意見を参考にし、本会理事会で選考し決定した。今年度は、医学・薬学分野からは研究テーマ「メタボリックシンドロームにおけるアルドステロン／鉱質コルチコイド受容体活性化機構と心腎臓器障害における役割」の長瀬美樹氏、生物・生化学分野からは研究テーマ「水の酸化を伴った光合成によるエネルギー変換機構と分子構造に関する研究」の杉浦美羽氏の2名を決定した。

応募されたすべての方々にはすばらしい業績があり、今年度も選考には一段とエネルギーを要した。今年度、応募者数は減少したものの、その分、応募者個々の研究業績は昨年同等あるいはそれ以上にすばらしく、今年度も各分野を先導されている方々の応募が多かった。

功労賞は、「①自然科学の発展、学術研究に顕著な功績のあった女性科学者、②女性科学者の研究推進・地位向上に寄与した者、③本会会員であり、会のために尽力し顕著な功績のあった者のいずれかに該当する者」が会員から推挙され本会理事会で決定される。本会理事会で審議の結果、今年度は、女性科学者の研究推進・地位向上に大きく貢献された東京女子医科大学名誉教授 橋本葉子先生、日本女子大学名誉教授・特定非営利活動法人総合画像研究支援 理事長 大隅正子先生が推薦され、本会より功労賞贈呈が決まった。

(文責 賞担当理事 佐藤 縁)



各受賞者と会長

第17回『日本女性科学者の会奨励賞』候補者募集

日本女性科学者の会は「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識の交換をはかり、女性科学者の地位の向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」を目的として1958年4月に設立されました。以来、公開講演会、公開シンポジウムなどの活動を行ってきています。2004年には日本学術会議19期第4部登録学術団体となり、現在は日本学術会議協力学術研究団体として活動しています。本会は女性研究者を援助、支援するために1995年から「日本女性科学者の会奨励賞」を設け、これまでに33名の方々が受賞されています。

第17回（2012年度）につきまして下記のように募集いたします。

『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

対象者：理系分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できる者であり、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員（応募時入会可）。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮ください。

奨励賞：賞状および奨励金20万円（年1～3件）。
本会総会（例年6月）において贈呈。

応募期間：2011年11月1日（火）～11月15日（火）必着
本会ホームページ（<http://www.sjws.jp/>）から応募書類をダウンロードできます。賞連絡事務局への応募用紙請求は、お葉書でお願いします。

決定時期：2012年3月末頃（郵便にて本人宛通知）

応募書類送付先：〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1 中央第6産業技術総合研究所
バイオメディカル研究部門 日本女性科学者の会賞連絡事務局
佐藤 縁 理事宛
FAX：029-861-6177 E-mail：award-sjws@m.aist.go.jp

※入会申し込みも受け付けます。なお、電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

祝受賞！

Distinguished Women in
Chemistry or Chemical
Engineering Award

相馬 芳枝 氏



SJWS 会員 相馬 芳枝 氏（神戸大学特別顧問）が、International Year of Chemistry（IYC：世界化学年）2011の女性化学賞を受賞されました。世界16カ国23人のうちの1人に選ばれました。

文責：山口

Ⅶ. 2010・2011年度事業報告、総会報告 その他

【2011年度総会報告】

2011（平成23）年6月19日（日）13：00～13：40）、学士会館において2011年度の総会が開催された。

出席28名、委任状138名で総会は成立したことが石川総務担当理事から報告され、大島会長が開会の挨拶を行った。

- 議 題：1. 2010年度 会務ならびに事業報告
2. 2010年度 収支決算と監査報告
3. 2011年度 事業計画案
4. 2011年度 予算案
5. 新理事・監事の承認
6. 支部報告

2010年度会務ならびに事業報告・2011年度事業計画案（以下に記載）、2010年度収支決算、2011年度予算案がそれぞれ承認された。また、新理事・監事（2011・2012年度）も以下の通り承認された。東北支部からは、東北支部活動の概要が報告された。

【2011（平成23）・2012（平成24）年度 理事・監事】

【本部理事】

石川 稚桂子	石野 知子	石原 良美	板倉 明子
今榮 東洋子	大倉 多美子	尾崎 美和子	角谷 治子
川口 奈奈子	喜多 淑子	小浪 悠紀子	佐藤 緑
中山 榮子	野呂 知加子	橋本 隆子	濱中 すみ子
馬越 芳子	増子 佳世	宮本 露子	山口 陽子

【支部理事】

東北支部：藤田 礼子（支部長）本間美和子
東海支部：吉田 絵里（支部長）
関西支部：功刀由紀子（支部長）玄番 央恵、藤井 紀子
九州支部：小島 秀子（支部長）谷口 初美、大住 伴子

【監事】

猪俣 芳栄 大島 範子
(文責：大島範子)

【2010年度会務ならびに事業報告】

1. ニュースの発行
2010年9月 107号（第15回「奨励賞・功労賞」記念特別号）
2011年3月 108号
2. 日本女性科学者の会学術誌の刊行2011年3月 第11巻
3. 総会
2010年6月27日（日）アルカディア市ヶ谷13：00～13：40
出席26名、委任状135名、合計161名；会則9条により成立
1) 会長挨拶
2) 2009年度会務ならびに事業・活動報告
3) 2009年度収支決算と監査報告
4) 2010年度事業・活動計画案
5) 2010年度予算案
6) 新理事・監事の承認
7) 支部活動報告
4. 第15回（2010年度）奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会、懇親会
2010年6月27日（日）アルカディア市ヶ谷14：00～17：00
・奨励賞受賞者
高橋まさえ会員
(応募時：東北大学金属材料研究所 准教授)
「第一原理計算による高機能性ケイ素π電子ナノ材料の基本単位の構築」

吉田麻衣子会員

(応募時：(独)日本原子力研究開発機構 研究員)
「核融合炉に向けたプラズマ回転速度分布と運動量輸送に関する研究」

- ・功労賞受賞者
水田祥代氏 九州大学理事・副学長
荒谷美智会員 青森県六ヶ所村文化協会文化・教育アドバイザー、日本女性科学者の会前理事
- 5. 理事会（5回）
2010年7月24日（土）学士会館
9月18日（土）学士会館
12月12日（日）アルカディア市ヶ谷
2011年3月6日（日）アルカディア市ヶ谷
5月29日（日）アルカディア市ヶ谷
- 6. 日本女性科学者の会第8回学術大会
2010年10月30日（日）仙台市情報産業プラザAER（アエル）セミナー室 参加者35名
実行委員長：藤田禮子理事（東北支部長）
一般講演：12題
特別講演『今ふりかえる「日米」共同参画事業～Equal Opportunity Lawから加速プログラムまで』
大坪久子氏（日本大学総合科学研究所教授）
- 7. 新春懇談会
2011年1月23日（日）アルカディア市ヶ谷 出席者33名
テーマ：「女性研究者支援のあり方について」
講演1「ソーシャルキャピタルを育む女性研究者支援—慶應義塾大学における取組み」
宮川祥子慶應義塾大学看護医療学部准教授
講演2「女性研究者支援のあり方について—産業技術総合研究所の取組みのご紹介」
佐藤緑産業技術総合研究所主任研究員
講演3「産学協働女性キャリア支援東海大学モデル」
谷俊子東海大学ワーク・ライフ・バランス特任助教
講演4「隠れた人材を活用した女性研究者支援—利益の共有と主導権の移転」
板倉明子物質・材料研究機構
ナノ計測センター 主席研究員
- 8. 第16回（2011年度）「日本女性科学者の会奨励賞・功労賞」の選考
奨励賞応募者19名
・奨励賞受賞者
杉浦美羽会員
(愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター准教授)
「水の酸化を伴った光合成によるエネルギー変換機構と分子構造に関する研究」
長瀬美樹会員
(東京大学大学院医学系研究科特任准教授)
「メタボリックシンドロームにおけるアルドステロン/鉱質コルチコイド受容体活性化機構と心腎臓器障害における役割」
- ・功労賞受賞者
橋本葉子氏
(吉岡彌生記念館館長、東京女子医科大学名誉教授)
大隅正子会員
(認定NPO法人総合画像研究支援理事長、日本女子大名誉教授)
- 9. 女子中高校生夏の学校2010（8月12日～14日；猪俣企画

Ⅷ. 支部だより

委員長)への参加

実験コーナー：荒谷前理事、宮本理事が担当

ポスター展示：大倉理事、橋本監事が担当

10. 第8回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
(10月7日；理化学研究所(和光))への参加
板倉理事：「WG女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の調査」について経過報告ならびにポスター発表
猪俣理事：SJWSの活動についてポスター発表
中山理事：懇親会司会
11. 国際婦人年連絡会主催「2010年NGO日本女性大会」(2010年12月4日、科学技術館サイエンスホール、参加者数600名)に参加。通年の準備段階から田中監事が常任委員会、宮本理事が実行委員会活動に参画。当日は田中監事が壇上で行動目標報告(環境委員会座長)、宮本理事がポスター展示。他に角谷理事が大会参加。
12. 後援：第15回APEC女性リーダーネットワーク会合
(Women Leaders Network Meeting)
9月19～21日；京王プラザホテル
13. 支部活動報告(支部理事)

【2011年度事業計画】

1. 日本女性科学者の会ニュース(109・110号)・会員名簿の発行
2. 日本女性科学者の会学術誌(第12巻)の刊行ならびに学術誌の電子化
3. 定期総会 2011年6月19日(日)学士会館
4. 第16回(2011年度)奨励賞・功労賞贈呈式並びに奨励賞受賞記念講演会
2011年6月19日(日)学士会館
5. 理事会 5回(7月、9月、12月、3月、5月)
6. 新春懇談会、例会等の開催
7. 第17回(2012年度)「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と選考ならびに「日本女性科学者の会功労賞」の選考
8. 女子中高生夏の学校2011、第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加
9. 東日本大地震被災地支援についての検討



例会のご案内



下記の通り例会を開催致します。

日 時：2011年12月18日(日)12時より

場 所：学士会館302号室

住所：千代田区神田錦町3-23

Tel. 03-3292-5936

若手会員5名位の方に発表して頂きます。
若手研究者の皆様、交流の良い機会です。
奮って参加しましょう！

Ⅷ. 支部だより

東北支部：

平成22年9月25日

川上とせ、細川せい、工藤真知子、對馬和子、他、青い森・科学BBL「科学実験室、放射線測定コーナー」生涯学習フェア2010、青森県総合社会教育センター第6研修室、青森

平成22年8月4日

六ヶ所村文化協会読書愛好会会誌 第237号発行

平成22年10月30日

第8回日本女性科学者の会学術大会、仙台市アエル、仙台

平成22年10月30日

荒谷美智「国立女性教育会館(NWEC)夏の学校～科学者・技術者のたまごたちへ～における核・放射線理解のための方法論」日本女性科学者の会2010学術大会、仙台市アエル、仙台

平成22年10月30日

荒谷美智、二本柳晴子、石川とみゑ、伊藤夏子、小笠原春枝「廃棄物から資源への視点転回－核分裂片の考え方」日本女性科学者の会2010学術大会、仙台市アエル、仙台

平成22年11月17日

荒谷美智「幼児のための科学実験教室のテキストと実験機材・装置について」保育士事前研修会、希望の友幼稚園・保育園、むつ

平成22年11月24日

荒谷美智、二本柳晴子、石川とみゑ「花火から宇宙を見る」幼児のための科学実験教室、希望の友幼稚園・保育園、むつ

平成23年2月25日

荒谷美智・二本柳晴子「花火で学ぶ宇宙と放射線」プロバスクラブ(ロータリークラブ・シニア部会)科学教室、六ヶ所村立平沼小学校理科室、六ヶ所

平成23年5月12日

川上とせ、細川せい、工藤真知子、對馬和子、他、青い森・科学BBL「生涯学習フェア2011のための出展内容について－東日本大震災と関連して－」青い森・科学BBL事務局、青森

(文責 東北支部理事 藤田禮子)

編 集：大倉 多美子・山口 陽子・猪俣 芳栄

小杉 尚子・橋本 隆子・石野 知子

発行所：日本女性科学者の会 ©

事務局：〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1

東邦大学薬学部内

石川稚佳子(総務担当)

FAX：047-472-1405

Ⅷ. 第16回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプションと総会風景

